



NEWS LETTER かながわ

2018年度第1号(通巻第23号)

2018年7月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

巻頭言

神奈川支部支部長 久保山茂樹

小・中学校の学習指導要領の「解説」を読んでみませんか

新年度になりました。会員の皆様には、それぞれの職場でご活躍のことと拝察します。5月20日の神奈川支部総会では15名の役員が再任されました。今後3年間の任期を誠心誠意務めて参ります。会員の皆様には引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。この総会で役員を退任なさった中川しのぶ先生と矢島友子先生には、支部活動の屋台骨を支え続けていただきました。改めまして心から感謝申し上げます。

さて、臨床発達心理士がかかわる領域は多岐にわたりますが、教育の領域では、昨年度、10年に1度の幼稚園教育要領や学習指導要領の改訂がありました。この中で、幼稚園や小・中学校の通常の学級においても、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用に努めることが記載されました。通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける子どもについては作成と活用が義務となりました。これまで以上に、学校や保護者から個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用について相談や支援を要請される機会が増えるものと考えられます。

また、幼稚園教育要領や学習指導要領の解説も公開され文部科学省のホームページや市販本として入手することができます。注目したいのは、小・中学校の全ての教科や領域の解説の中に「障害のある児童など学習活動の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」が記されていることです。例えば、国語では「文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと」(160頁)などが、総合的な学習の時間では「人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい場合には、安心して発表できるように、発表する内容について紙面に整理」(44頁)などが、具体的に記されています。さらに生活科では「配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点からだけでなく、活動グループの計時係として活躍させるなど得意なことを活かすといった視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながる」(79頁)とあります。臨床発達心理士には、こうした記述を熟知して学校の先生方に伝えたり、工夫を広げたりすることが期待されています。支部研修会では、今後も特別支援教育について取り上げ、皆様とともに学んで行きたいと思っております。

神奈川支部総会報告

2018年度の臨床発達心理士会神奈川支部定期総会は、5月20日（日）にウィリング横浜において開催されました。当日総会出席の28名に加え97名分の委任状により、会員総数252名の3分の1を超えたため、総会成立となりました。

総会では初めに議長の選出があり、推薦によって相模原市緑障害福祉相談課の渡辺恵子さんが議長に選出されました。

続いて2017年度の活動報告がありました。2017年度は例年通り年3回の研修を実施しましたが、分科会として初めて事例検討会を実施いたしました。また、年2回のニューズレターの発行や、全国大会にて神奈川支部の紹介を実施したことが報告されました。年度途中での変更点として、2017年度より士会の災害・危機支援特別委員会が災害支援部門と危機支援部門に分割され、災害対策委員会への支部協力制度が廃止されたこと、神奈川支部より日本臨床発達心理士会広報委員会委員を1名選出したことの報告がありました。

2017年度決算報告では、特記事項として、支部総会運営費がマイナス収支になっている点に関し、予算上では支部総会運営費と支部研修会運営費が別になっているが、実際には総会と研修会を同日に実施しているため、両運営費を合算して考えてほしいとの説明がありました。また、印刷費に関しては、今年度から資料の印刷を外注することにしたため、当初の予算額を超えているとの説明がありました。

その後、役員を選出がありました。今年度から新たに横浜市立左近山小学校の岡部一郎先生が会計担当役員として加わることが承認されました。一方で、2017年度を持ちまして会計担当の中川しのぶ先生、災害支援担当の矢島友子先生が役員を退任されました。

最後に2018年度の活動計画・予算案が提案され、承認されました。特記事項としては、2018年度から新たに士会の実践研究誌編集委員会、職能問題検討委員会に神奈川支部の会員から1名ずつ協力役員を選出することになりました。また、支部のホームページをスマートフォンからのアクセスに対応するため、予算案にホームページ関係費を計上しています。

最後に事務局から、今後は研修会等の情報配信が主にSOLTIからの配信になるとの話がありました。メールアドレスや所属等に変更がある場合は、SOLTIにて各自変更を行ってほしいとのお願いがありました。

今年度は岡部先生を役員に迎え、新たな体制でスタートします。今後とも臨床発達心理士会神奈川支部をよろしくお願いいたします。

（文責：須田恭平）

神奈川支部総会の様子





神奈川支部研修会報告

2018年5月20日(日)に、第1回資格更新研修会をウィリング横浜において実施しました。
次のテーマで講師の先生をお招きし、お話を伺いました。

講演

テーマ：児童虐待の実情の理解と支援の方針－愛着形成不全とトラウマへの対応－

講師：中垣 真通 氏(子どもの虹情報研修センター 研修課長)

研修会のアンケートでは、数多くの希望が寄せられていた「虐待」について、①現状、②歴史、③被虐待児の心理、④支援の基本についてお話を伺った。

全国の児童相談所に対応する児童虐待の相談件数は、社会が気付くようになったこともあり増加傾向が著しいこと(この17年間で10.7倍)、虐待の種別では、以前は身体的虐待の対応件数が多かったが、平成25年度から心理的虐待が身体的虐待を上回っていること、ネグレクトは平成10年代から増加していること、性的虐待は深刻で、本人から開示があった場合は質問攻めにして深追いせず、「本人が救われること」をまず優先することが重要であることなどが話された。

戦前・戦中は、貧困ゆえの奉公や身売りなど、子どもは親の所有物のように扱われ、独立した人間として尊重されていたとはいいがたい現状もあった。昭和時代のホームドラマやアニメ(例えば、「寺内貫太郎一家」、「巨人の星」など)では、人情味豊かであるが乱暴な場面もあり、家庭内の暴力に許容的な風潮があった。この時代は、児童虐待が存在する一方で親子・家族・共同体の情緒的に深い関係があると考えられていることが分かった。

被虐待児は周囲の人間への不信感を持っている、だから「ベースの感情は“コワイ”」であり、圧迫感と絶望感にとらわれて生きている。常に苦痛や恐怖が連続する日々のため、基本的信頼感が育たず、前向きになるような対処方法を伝えてもネガティブな反応が多いという。また、強いトラウマがある子どもは、「フラッシュバック」(凍結されていた記憶が突然よみがえり、鮮明な感覚に襲われること)や「解離」(感覚、記憶、思考が途切れ、意識や注意が薄れて自分としてのまとまりが喪われている状態)が起こりやすいという。強いトラウマを体験した子どもは日常的に解離を起こしている可能性が高く、ボーっとしている(意識が飛んでいる)ことや、見え透いた嘘を言ったりすることがあるが、どちらの場合も対応する側は冷静に、子どもが落ち着いてから、状況を聞き、いっしょに対処方法を考えることが重要だそう。虐待を受けてきた子どもは、成長の糧となる肯定的な体験が不足しているので、肯定的な体験を多く経験させていくことが必要であり、そうすることで、虐待の連鎖も止まる可能性が高いということである。

ご講演は多くのエピソードを交えた実践的なお話で、熱心にペンをとる参加者の姿の多さが印象的だった。
(文責：小林倫代)

研修会の様子



中垣 真通氏



神奈川支部研修会についてのアンケート結果

アンケート回収率：75%

※アンケートにご協力いただきありがとうございました。ご意見・ご感想を抜粋、一部省略し、掲載させていただきます。

講演「児童虐待の実情の理解と支援の方針」(講師：中垣真通氏)についてのご意見・ご感想

- 保育現場で働いているため、性的虐待の第一発見者になり得るとのお話には、身が引き締まる思いでした。
- 実体験に基づく内容が多く、とても理解しやすいお話でした。
- 保育園にも虐待やDV環境の中で育った子どもたちが多く入園してくるようになりました。保護者の生育状況も受け止め、支援を大切にしていきたいです。
- 具体的な対応まで含め、心に届く充実したお話でした。性被害に対する対応もとても勉強になりました。「世代間の連鎖は止められる」というお話も、希望が持てました。
- 児童虐待の歴史、背景から丁寧にお話いただき、そこから愛着形成、支援方法につながる内容でしたので、意味づけしやすくとっても勉強になりました。
- 基本的信頼感、自己調節機能、自己効力感の大切さを改めて感じました。「良いものをもらい損ねて、不適切なものを与えられてきた」という言葉が印象的でした。
- 日々の支援の中で、虐待かどうかという点に目が向いてしまうことはよくあります。そうではなく、子どもの心に幸せになりにくさを残していないかに目を向け、支援の必要性を考えていくという話が、スッと心に入ってきました。
- 性的虐待の開示を受けた時の対応が参考になりました。
- 以前、虐待ケースを担当していたことがあったのですが、今回の研修を受けて、改めて知らない事の多さに気づかされました。親しみやすい話し方でどんどん引き込まれ、時間があっという間に過ぎてしまいました。遠方から来てよかったです。
- 虐待を受けている子どもたちの心理状態を具体的な事例からお聞きすることができ、大変勉強になりました。叱責された経験や傷ついた経験が多く、日常生活で安心しにくいという状態は、発達障害のある子どもたちの日常にも重なるところがありそうでした。子どもに関わる専門機関同士がしっかり連携をとり、様々なシーンで親子を支援できる体制を作る必要があると思います。

今後の研修会でとりあげてほしいテーマ

- ・きょうだい児等、課題のある子育てをしている保護者支援
- ・集団の中で「気になる子ども」の対応について
- ・「孤育て」を防ぎ、子どもの健全な発育を支える乳幼児期の育児支援について
- ・大学で行っている障害学生支援について ・不登校や引きこもりの支援について
- ・療育方法（児発などで行われている療育の実践例） ・LGBTについて
- ・母親が発達障害である場合の、母への心理教育や関わり方 など

全体運営について

- ・臨床発達心理士の機構ホームページに掲載されていた研修案内に、他支部の参加の可否についての記載があると助かります。
- ・受付をもう少しスムーズに行ってほしいです。

ご意見ご要望ありがとうございました。ここ2, 3年の研修テーマと突き合わせつつタイムリーで要望の高いテーマを取り上げていきたいと思っています。また、全体運営についても改善を図っていききたいと思っています。(研修担当より)

(文責：高橋 真美)



職場紹介

荒井 はるか（特定非営利活動法人 grand-mere）

海老名市にあります、グランメールです。当事業所は、障がいをもつ子どもたちが自分らしく、力を発揮して社会に必要とされるように、また、その子どもたちを育てる保護者が気軽に相談できる場所として、家族に寄り添った支援を行うことを目的に設立され、今年6年目を迎えました。"grand-mere"はフランス語でおばあさん。「もうひとつの実家」のようにホッとできる場であり、子どもたちが自己肯定感を持ち、安心して社会に飛び立っていけるよう準備する場所を目指しています。

具体的には、児童発達支援・放課後等デイサービスにおいて、18歳までの障がいのある子どもたちに生活スキルやコミュニケーション、学習、運動など、その子に合った療育を設定し取り組んでいます。中高生では組み立て作業やスタンプ押しなど、就業を見据えた課題を準備し、社会でその子の持つ力が発揮されるよう支援を行っています。その他に、保育所・幼稚園・学校等を訪問し、本人が集団生活に適応して過ごせるよう支援の方法を提供する、保育所等訪問支援。療育手帳や受給者証を持っていないお子さんの学習支援や心の相談を行う、学習支援。子どもの発達や育児について不安を持つ保護者からの相談に応じていく、相談支援があります。

日々の療育や訪問支援の仕事に携わる中で、子どもたちの「生きづらさ」に触れ、どのような支援を行えば良いか、自分の提供している療育はその子に適しているだろうか戸惑うこともあります。スタッフ同士や他機関の専門員とも連携しながら、一人ひとりの利用者に向き合っています。

先日、卒業生が事業所に遊びに来てくれることがあり、「また来ます」と笑顔で帰っていく姿を見て私たちスタッフの方が励まされていました。事業所に通ってくるさまざまな子どもたちや保護者とともその子の成長を喜び、笑顔で日々を重ねていきたいと思っています。

❁ グランメールでは一緒に働く仲間を募集しています！ぜひHPもご覧頂けると嬉しいです。

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

<連絡先>

神奈川支部 広報担当宛

e-mail : jacdpkanagawa@gmail.com



お知らせ

■ 神奈川支部 2018 年度第 2・3 回資格更新研修会（予定）

<第 2 回>

- 日 時：2018 年 12 月 16 日（日）10：30～12：00 【0.5 ポイント】
- 会 場：ユニコムプラザさがみはら
- 内 容：実践報告と意見交換（テーマ別の 3 つの分科会と 1 つの事例検討会）

<第 3 回>

- 日 時：2018 年 12 月 16 日（日）13：30～16：30 【1 ポイント】
- 会 場：ユニコムプラザさがみはら
- 内 容：講演会「医療的なケアが必要な子どもの学校内での配慮」
講師…萩庭 圭子氏（神奈川県立横浜南養護学校）

※ 詳細が決まりましたら、士会・神奈川支部ホームページ、SOLTI にてお知らせいたします。

■ 日本臨床発達心理士会第 14 回全国大会が、下記の要領で開催されます。

会期	2018 年 8 月 25 日（土）～8 月 26 日（日）
会場	中京大学名古屋キャンパス
テーマ	臨床発達の実践から立ち上がる研究－実践を研究へと結びつけるには－

■ お願い

①SOLTI について

日本臨床発達心理士会では、「会員情報管理システム（SOLTI）」を運用しており、所属や住所等の会員登録情報の照会や変更については、会員自身が WEB 上で直接行うことができます。神奈川支部では、研修会およびニューズレターについては、SOLTI 配信のみとさせていただいております。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

②神奈川支部総会について

本年度の支部総会は、多数の委任状をいただきましたが、当日のご出席者数が残念ながら、寂しい人数でした。会員の皆様からのご意見等をお聞きする年に一度の大切な機会と考えております。ぜひ次年度は少しでも多くの皆様のご出席をお願いいたします。

<編集後記>

梅雨に入り、肌寒い雨の日が続いたと思ったら、いきなり連日の夏日といった体調管理が難しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回のニューズレターは、5 月の支部総会と第 1 回資格更新研修会のご報告を中心にお届けいたしました。

今回のニューズレターにお気づきの点、ご意見・ご感想等ございましたら、今後のニューズレター充実のために生かしていきたいと思っておりますので、支部メールアドレス (iacdpanagawa@gmail.com) にご連絡ください。

これから本格的な夏に向かいますが、皆様ご自愛ください。

（広報担当 橋爪美津子・佐藤朋実）